

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原駅北口地区まちづくり推進会議				
事務局 (担当課)		相模原駅周辺まちづくり課 電話 042-707-7026 (直通)				
開催日時		令和3年7月2日(金) 18時00分～20時00分				
開催場所		WEB会議				
出席者	委員	15人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	12人(広域交流拠点推進部長、相模原駅周辺まちづくり課長、外10人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会  2 議題 (1) 第2回推進会議の振り返りと第2回推進会議以降の動きについて (2) アンケート及びオープンハウスの結果について (3) 目指すまちの姿の検討について (4) 導入機能(ライフ・にぎわい)の検討について (5) その他  3 閉会				

# 議 事 の 要 旨

## 1 開会

## 2 議題

( 1 ) 第 2 回推進会議の振り返りと第 2 回推進会議以降の動きについて  
事務局より資料 1 に基づき説明を行った。

( 2 ) アンケート及びオープンハウスの結果について  
事務局より資料 2 に基づき説明を行った。

( 大沢委員 ) アンケートの配布数及び有効回答数は正確に表記すべきである。

( 事務局 ) アンケートの回答数は 1,576 件であるが、設問により無回答があるため、合計回答数が 1,576 件になっていないものもある。設問別に有効回答数を表記する。

( 安藤孝洋委員 ) アンケート調査の回答で、商業機能、健康・スポーツ機能、オープンスペース機能、文化・生涯学習機能が上位となっているが、具体の施設についての回答はあるか。

( 事務局 ) 今回は機能を調査している。この後の議題で各機能に関する具体的なイメージについて意見をいただきたい。

( 3 ) 目指すまちの姿の検討について

事務局より資料 3 に基づき説明を行った。

( 安藤孝洋委員 ) 「国際的で特別な場所」とは、どのようなイメージか。

( 事務局 ) 前回の会議で「ありきたりのまちづくりではなく特色を出す」「英語のみでコミュニケーションをとるまち」というご提案があったので、「国際的で特別な場所」と表記している。

( 赤瀬委員 ) 「国際的な人材を育成する」「海外の学校を誘致する」「英語のみを使用可とする」などにより、特別で他に事例のないまちになる。

( 赤瀬委員 ) 子どもたちが成長し続けるまちとは、どのような意味か。教育の充実ということか。

( 事務局 ) 子どもが安全・安心にのびのびと成長できるまちという意味である。また、相模原市には多くの企業があるため、モノづくりなどを体感、体験することにより成長できるという意味も含んでいる。

( 赤瀬委員 ) 子どもが高水準の教育を受けられる環境というのはよいと思う。

( 安藤孝洋委員 ) 相模原ブランドの発信について、具体的な内容があれば教えてほしい。

( 事務局 ) 前回の会議では、「さがみはらフェスタなどのにぎわいのあるイベント

のノウハウを活用して相模原ブランドを発信していければ」という意見があった。

(事務局) 目指すまちの姿として、ライフは「充実した豊かな暮らしで“みんながつながり”心から笑顔あふれるまち」、イノベーションは「新技術の展開発信で“みんながつながり”未来に誇れるまち」、交流・にぎわいは「人・モノ・技術が共鳴して“みんながつながり”いきいきできるまち」を案としてよいか。つながりや、いきいき、共感をキーワードとして考えている。

(安藤孝洋委員)「みんながつながり」というキーワードが共通で入っていて、よいと思う。つながりは大事である。

#### (4) 導入機能(ライフ・にぎわい)の検討について

事務局より資料4に基づき説明を行った。

##### < 商業機能、飲食機能 >

(細谷委員) 事例で示されている大阪市や港区の施設は、相模原市と比較すると規模が大きいように感じるが、この事例を取り上げた理由を教えてほしい。

(事務局) 人口規模や施設規模ではなく、商業施設に先端技術を取り入れた事例として示している。

(細谷委員) 技術はあくまでツールであり、何のために技術を活用し、技術を用いてどのようなまちを目指すかということが重要である。

(中島委員) 市民満足度の高さが定住につながると思うが、市内には子育て家族が楽しめる施設がない。全天候型で遊べる施設や、離乳食を提供する店など、親子で楽しめ、安心して子育てできる施設があると、子育てしやすいまちになると思う。

(大沢委員) 対象地は米軍から返還された国有地であるから、単に買い物ができる商業施設ではなく、イノベーションなどを関連付けたストーリー展開が必要と考える。

(事務局) ご意見の通り、コンセプトである「ライフ×イノベーション シティ」を実現する方向で検討していかなければならないと考えている。

(安藤孝洋委員) 資料のように、商業施設単体ではなく、商業と業務、商業と住宅など、併設されているものがあるとよい。商業は民間の力が大きいため、優良企業との取組による展開が必要である。

##### < オープンスペース機能 >

(川口委員) イベントを開催できる場所は確保して欲しい。様々なイベントを行っていることが、相模原の目玉になると思う。補給廠の残りの土地も含めて、スタジアムを建設するよりも、有効活用できると思う。

(大沢委員) 例示があったウォークアブルのイメージは、道路の自動車空間を歩行空間に再編するものである。今回の対象地は再編ではないため、誤解を与えないような記述とした方がよい。

(池田委員) カーボンニュートラルや SDGs などの世の中の流れから、緑豊かなオープンスペースの確保は必要だと思う。

(小林委員) 潤いやにぎわいの場としてのオープンスペースはよいと思う。限られた人よりも、様々な人が利用しやすいことが大事である。気軽に交流でき自然な人混みのなかでオープンスペースが確保されると新たな交流が生まれる。イベントができることも重要である。様々な人が利用、参加できることは、キーワードの“つながり”にもなる。このようなオープンスペースは、それ自体がまちの特色や景観にもなる。

#### < 医療機能 >

(大沢委員) 健康を基本に、笑顔になれスポーツなどができ、そういう機能の最後の砦として病院という考え方ではないか。身近にあると安心感はあるが、新たにつくるまちなので、様々な機能配置の検討を行ったうえで、最後の砦として医療機能を考えるのはどうか。

(事務局) 健康・スポーツ機能や予防・未病の視点から医療機能の導入は検討していくべきと考えている。

(安藤孝洋委員) 隣接して病院があるが、今回の対象地に医療機能を導入するのか。

(事務局) 導入するということではない。アンケート結果では、導入して欲しいという回答が多かったため、ご意見を伺っている。新規での配置を望む意見もあれば、遠隔医療など、イノベーションを使った医療の意見もあった。

(事務局) 病院は、市域全域での対応を考えていくものである。まちができ、病院の需要が生じるのでそこに作る、というものではない。

#### < 健康・スポーツ機能、スポーツ・レクリエーション機能 >

(布施委員) 今回の対象地に隣接し、共同使用区域の 35ha の土地があるが、こちらについては将来的にどのようなようになるのか。

(事務局) 米軍との共同使用区域であり、オレンジ色の部分はスポーツ・レクリエーションパークとして整備している。共同使用区域であるため、米軍との取り決めで米軍が優先して利用する区域であり、建築物を建てることはできない。

(布施委員) 今回の 15ha に様々な機能をつめ込もうとしているように感じる。共同使用区域に移せる機能、例えばオープンスペース機能は、共同使用区域側に設けるのはどうかと思った。商業機能は、近隣に大型ショッピングセンターがあるため、競合する施設でない方がよい。広域交流拠点の視点も踏まえて、橋

本との機能分担をした方が活気のあるまちになる。

(事務局) 共同使用区域でも、特に資料の緑色部分にオープンスペースを配置するのは現状では難しい。米軍が使用していないときに、単発のイベントを開催することはできるが、恒常的に市民が立ち入ることは認められない。

(池田委員) スタジアムという意見が多いということであるが、市としてはどのように考えているのか。

(事務局) 推進会議では、あくまで導入機能について議論するというので、具体的な施設については議論の対象ではないと考えている。ただし、機能に付随する施設の例としては議論できればと思う。

(牧野委員) 今回のアンケート結果で、スポーツ・レクリエーション機能が注目されているが、回答者の居住地によって傾向が異なる点も注目すべきである。スポーツに対する機運が高まっている点は重要視しなければならない。観光という観点で、相模原市周辺ではイベントスペースや会議場、バンケット(宴会場)が不足している。今後はオンラインとリアルのハイブリットな会議が必要になると考えられるため、最先端設備を備えた会場の需要が高まると考える。また、生活するうえで商業機能も必要不可欠であるため、この3点が備わっている事例を参考にできるとよい。

(大沢委員) スポーツ・レクリエーション機能は、稼働率が低いという課題がある。海外では、座席部分を公園にしてイベント終了時にそこで食事をできるようにするなど、稼働率を上げる工夫を行っている事例もある。国内事例のみでなく、海外事例も示してもらえるとよい。

(細谷委員) 機能の複合化が望ましい。スタジアムは試合の日は利用者が増えるが、試合以外の日は閑散としており、興味のない人にとっては距離感のある施設である。市民も満足でき、他都市からも人を呼べるように、他の機能と融合できるとよい。

(安藤重夫委員) 大阪府のナレッジキャピタルは面白いと思う。商業施設でありながら、喫茶店で利用者が勉強したり、イノベーションにつながる企業実験が行われたりしている。スタジアムであれば、試合のない日に、他の利用をしているような事例を示してもらえると議論しやすい。

(細谷委員) アンケートの自由記述に、相模総合補給廠の歴史を知れる機能があるとよいという意見があった。この土地の歴史を知れるようなものも導入できるとよい。

(佐藤会長) 次回以降の会議は、市民意見等を踏まえて、機能について集約していく作業が必要となる。第4回会議では行政の考えが示され、第5回会議ではとりまとめを行うこととなる。ライフ×イノベーションシティというコンセプトに対し、ライフに関しては、豊かな暮らしができる機能、つながりが実現され

る機能、笑顔が実現する機能が考えられる。イノベーションに関しては、新技術の発信機能、未来に誇る機能が考えられる。交流に関しては、人・モノ・技術の共鳴機能、つながり機能、いきいき機能が考えられる。これらの機能を体系的に網羅した議論ができた。最終的には集約を行わなければならないため、会議後のアンケートでは集約を念頭に置きながら意見を提出していただきたい。また、実現にあたっては、担い手も必要となるため、事業者の観点も重要である。

( 5 ) その他

今後のスケジュール等について確認した。

3 閉会

相模原駅北口地区まちづくり推進会議 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	職務代理	出席
2	佐藤 知正	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 名誉教授	会 長	出席
3	高橋 聡	内閣官房 地域活性化伝道師 (カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 公共サービス企画営業事業本部 事業本部長)		出席
4	牧瀬 稔	関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授		出席
5	安藤 孝洋	相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会 副会長		出席
6	小林 美羽	公益社団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム さがまち学生 Club 学生メンバー		出席
7	布施 昭愛	相模原商工会議所 事務局長		出席
8	中島 隆子	子育て親育ち応援団 W i t h . c f c 代表		出席
9	森 道洋	公益社団法人 相模原青年会議所 アカデミー渉外委員会		出席
10	安藤 重夫	株式会社 さがみはら産業創造センター 取締役 事業創造部長		出席
11	池田 亨	株式会社 横浜銀行 相模原駅前支店長		出席
12	牧野 英太郎	株式会社 J T B 相模原支店長		出席
13	赤瀬 公男	公募委員		出席
14	川口 久美	公募委員		出席
15	細谷 巧	公募委員		出席